

## 編集後記

本号では、バラエティーあふれる魅力的な内容を盛り込むことができました。

巻頭論文は、高木侃・元専修大学法学部教授による「縁切寺研究余話」の第3弾、作家・井上ひさし『東慶寺花だより』を独自の視点から読み解いていくものです。

続いて掲載しましたが、専修大学法学部と中国・南開大学法学院との学術交流協定協議書調印式に際して行なわれた「記念講演」と「記念講義」の記録です。経緯の説明に続いて、坂本武憲・専修大学法学部教授の記念講演「役務提供型契約の規定方法 日本の民法（債権法）改正における動向」、小川浩三・専修大学法学部教授の記念講義「法の循環 新しい比較法学と東アジア法の可能性」、鈴木秀光・専修大学法学部准教授の記念講義「清代中期における軽度命盗案件の裁判手続 「詳結」を中心として」、小野寺忍・専修大学法学部教授の記念講義「日本民事訴訟法における三審制の課題 法の循環の視点から」の大きく4つの記録から成っています。ここで出てくる「法の循環」というキーワードについて付言しますと、専修大学法学部では、「東アジアにおける『法の循環』」というテーマを措定して共同研究を開始しており（2013年11月30日には、本共同研究の第1回目の公開ワークショップを開催）、この記念講演および記念講義も、この共同研究の一環と位置づけることができます。

そして、2011年4月あるいは9月から1年間在外研究に行かれたお二人の先生から、在外研究報告として寄稿していただきました。オランダのライデン大学国際アジア研究所に留学された菅原光・専修大学法学部准教授による「幕末和蘭留学とオランダの値段 在外研究報告（にかえて）」と、イギリスのロンドン大学経済政治学院に留学された藤田由紀子・専修大学法学部教授による「英国公立学校の初等中等教育を観察して」です。両先生には、論文に先立ち、2012年2月に本研究所の主催で行なわれた合宿研究会においても、在外研究報告をしていただきましたが、その報告を踏まえつつ、さらに興味深い内容の原稿を寄せていただきました。

最後に、刊行にいたるまで多大なご迷惑をおかけした皆様にお詫び申し上げますとともに、寄稿していただいた先生方に、改めて感謝申し上げます。

(中川敏宏)